

令和5年度 兵庫県立農業大学校評価シート

【教育目標】

国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

【重点目標】

- I 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保
- II 実践的教育の充実・強化による学生の資質向上
- III 就農率の向上に向けた学生指導の充実

【達成度の基準】

- A 目標を上回っている
- B 目標どおりに進捗している
- C 目標を下回っている

I 重点目標：次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	今後の取り組み・課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度												
1 定員40名に対し直近2年間の競争率は1.0倍。しかしR4年度は定員を下回り、R5年度は上回るなど、流動的で定員の確保が見通しにくい状況。(入試受験者R4:31名、R5:50名)	高校・関係機関等との連携協力	1 高校の進路指導担当者等へ大学校の情報を提供 ① 農業高校：高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて ② 普通科高校等：高校進路指導研究会(「進指研」)を通じて	1 高校の進路指導担当者等へ大学校の情報を提供 ① 農業系高校：新たに大阪府内2校へも情報提供した。 ② 普通科高校等(進指研)：新たに姫路支部へ参加した。また、東播支部では支部内出身の学生からプレゼンを実施。 【実績】 1 大学校情報の提供 ① 農業高校等への説明(進路ガイダンス)：8校13回(淡路2回、錦城、県農2回、播磨農高3回(模擬授業含む)、篠山産業、但馬農高、大阪府立園芸2回、大阪府立牧岡樟風) ② 進指研での説明：4支部(神戸、姫路、東播、阪神)	1 進路指導担当者等から勧めてもらえる大学校となるために、大学校の情報を発信 (1)高校の進路指導担当者への情報発信 ア 農業高校：高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて イ 普通科高校等：「進指研」対象地域の拡大 ウ 映像を活用した情報の提供 (2)隣接府県を含む高校主催進路ガイダンスへの出席	大学校の認知度向上のため、18歳人口減少を念頭に中学生へのアプローチも検討しながら、引き続き積極的なPR活動の展開を	A												
2 入学者は36.4名で定員充足率は91.0%。(R1~5年度平均)		2 農高生のつどい等の場で農大生が高校生へ魅力を伝達 3 農業高校等教員と農大教職員との交流推進	2 農高生のつどいに参加(11/9) 3 県高等学校生物部会と連携して農業研修を実施：7/7、7校(8名)の教員が参加 4 東海近畿ブロック農業大学校指導職員技術担当者研修会の開催：2/16(12名)	ア 農業高校：高等学校教育研究会農林水産部会などを通じて イ 普通科高校等：「進指研」対象地域の拡大 ウ 映像を活用した情報の提供														
3 農業高校からの入学者は62.1%、実数22.6名。(R1~5年度平均)	大学校のPR	【評価指標】 1 大学校情報の提供 ① 農業高校への説明：11校 ② 進指研での説明：4地域 2 高校出身者を引率しての大会参加 3 教職員交流の実施	* 入試結果(合格者数/受験者数)：40名/48名、受験者数が定員を上回った。	1 受験生に選んでもらえる大学校となるため、大学校の魅力をPR (1)農大の特色のPR 特色：実践学習、資格取得、農家等派遣実習、インターンシップ、4年生大学編入、就職状況 (2)進路指導担当者や進路ガイダンス、収穫祭で映像を活用した魅力の発信 (3)収穫祭で受験相談コーナーを設置	同上	A												
4 推薦入試による入学者実数は24.2名で66.5%。(R1~5年度平均)		1 進指研を通じた普通科高校等への進路ガイダンスを強化 2 農業大学校の特色をより理解してもらうため、映像等を活用したPR 3 農業改良普及センター(以降「普及センター」)、JAや市町等への農大関係資料の配付と受験者掘り起こしなどの協力要請	1 新たに進指研姫路支部での進路ガイダンスを実施【再掲】 2 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパスでは、生徒、進路担当者、保護者に対してHPに掲載の学校紹介映像を用いて特色をPRした。また収穫祭では、来場者に対して学生作成の映像を流しながら、実習内容等をPRした。 【実績】 1-1 進指研での説明・PR：4地域(再掲) 1-2 進路ガイダンス：延べ13回(再掲) 2 進指研、進路ガイダンス、オープンキャンパス、収穫祭での映像の活用【再掲】	1 受験生に選んでもらえる大学校となるため、大学校の魅力をPR (1)農大の特色のPR 特色：実践学習、資格取得、農家等派遣実習、インターンシップ、4年生大学編入、就職状況 (2)進路指導担当者や進路ガイダンス、収穫祭で映像を活用した魅力の発信 (3)収穫祭で受験相談コーナーを設置														
5 オープンキャンパス参加者は76.4名(H30~R4年度平均、募集人員：R3のみコロナで60名に制限。その他は80名)	ホームページによる情報発信の強化	1 学生によるトピックス・農大情報の積極的な発信 2 タイムリーな入試情報等の発信 【評価指標】 1 学生による情報発信(30回以上) 2 トピックス発信、卒業生の就職状況、過去の問題等の掲載	1 学生によるトピックスでの情報発信 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>月</td> <td>4-6</td> <td>7-9</td> <td>10-12</td> <td>1-3</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>25</td> <td>7</td> <td>90</td> </tr> </table> (参考)トピックスの発信総数は112件	月	4-6	7-9	10-12	1-3	計	件数	29	29	25	7	90	1 トピックス・お知らせ等でのタイムリーな情報の提供 2 学生による情報発信	一般の方の目に触れるような広報を積極的にして欲しい	A
月	4-6	7-9	10-12	1-3	計													
件数	29	29	25	7	90													
	農大見学会、オープンキャンパス等でのPR	1 対象者を絞ったタイムリーな農大見学会を開催(6月：高校3年生、3月(新規)：高校2年生) 2 オープンキャンパスの開催(8月、2回) 3 個別見学の受け入れ 【評価指標】 1 見学会参加者：定員95%以上 2 オープンキャンパス参加者：定員95%以上 3 個別見学の受け入れ：適宜	【実績】 1 対象者を絞ったタイムリーな見学会の開催：6月20名、3月*24名、計44名(定員60名の73%) *R6年6月分を早めて「春休みオープンキャンパス」として開催 2 オープンキャンパス：8月2回、67名参加、定員80名の84% 3 個別見学：4回、6名参加 4 農業系高校1学年の見学：2回、67名参加	1 3月の見学会を春休みオープンキャンパスとして定着化する。年度内にオープンキャンパスを3回開催 2 農業系高校1学年(学科単位)の見学受け入れ	農業系高校と連携した集団での視察受け入れを増やしては	A												

Ⅱ 重点目標：実践的教育の充実・強化による学生の資質向上

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	今後の取り組み・課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度																																																																						
1 講義に対して実習時間が1.5倍と実践的教育を重視 2 連携協定企業のGAPや農福連携の取組を学ぶ等、カリキュラム改善に取り組んでいる	知識・技術に関するカリキュラムの強化	1 学生参画のもと専攻実習に関する目標や活動計画づくりとその実践 2 企業等との相互交流の促進 【評価指標】 1 学生参画のもとでの専攻実習の体制づくりとその実践 2 企業等との交流の場の開催	1 各品目や施設、畜種の担当を決め、週間計画はカレンダーに、1日の計画はホワイトボード等を活用しながら作業計画をたてて防除や収穫等を実践している。しかし、学生の経験や学習意欲の差により作業の進捗度に差が見られる。 2 1年生を対象に新規就農へ導くことを目的に、農業法人、農産物直売施設、JAグループ兵庫との交流の場を開催。学生から「新規就農に大切なことが印象に残った。またJAグループとの勉強会で農大の先輩の話が刺激的だった。」との感想が聞かれた。 3 既卒者アンケートで要望が多かった「大型特殊自動車(農耕用限定)免許取得後の操作機会の増加」を満たすため、1年後期の技術実習に組み込み実施した。	1 学生参画のもと専攻実習の活動計画づくりとその実践 (1) 専攻部長のほか知識や技術の習熟度の高い者を取りまとめ役指示役として活動の共有化を図る	特になし	B																																																																						
3 資格取得を推進しているが、合格率の低い資格がある 農業機械士：R4 合格率28% 日本農業技術検定2・3級：R4 合格率52% 4 スマート農業の教育強化のため、環境制御装置、GPS付農機具、畜産遠隔管理装置を導入	資格取得の促進	1 進路を見据えた資格取得の奨励 2 農業機械士及び日本農業技術検定の合格率向上に向けた継続的な支援 【評価指標】 1 特に取得推進する資格 ①大型特殊免許(農耕用)：全員 ②農業機械士：合格率40% 2 日本農業技術検定2級・3級：合格率60%	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・免許の種類</th> <th>受験(受講)者</th> <th>取得(合格)者</th> <th>合格率</th> <th>備考(全体取得状況)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大型特殊自動車(農耕用限定)運転免許</td> <td>39</td> <td>38</td> <td>97%</td> <td>2年生96%取得</td> </tr> <tr> <td>刈り払い機取り扱い作業安全衛生教育</td> <td>38</td> <td>38</td> <td>100%</td> <td>1年生100%取得</td> </tr> <tr> <td>小型車両系建機特別教育</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>家畜人工授精師養成講習会</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>100%</td> <td>畜産専攻</td> </tr> <tr> <td>指導農業機械士</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>33%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>農業機械士</td> <td>58</td> <td>23</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>危険物取扱者</td> <td>受験者なし</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>フォークリフト</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アーク溶接</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>隔年開催</td> </tr> <tr> <td>ガス溶接</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>隔年開催</td> </tr> <tr> <td>日本農業技術検定 1級</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本農業技術検定 2級</td> <td>37</td> <td>10</td> <td>27%</td> <td>日本農業技術検定2級・3級合格率：51%</td> </tr> <tr> <td>日本農業技術検定 3級</td> <td>24</td> <td>21</td> <td>88%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資格・免許の種類	受験(受講)者	取得(合格)者	合格率	備考(全体取得状況)	大型特殊自動車(農耕用限定)運転免許	39	38	97%	2年生96%取得	刈り払い機取り扱い作業安全衛生教育	38	38	100%	1年生100%取得	小型車両系建機特別教育	—	—	—		家畜人工授精師養成講習会	9	9	100%	畜産専攻	指導農業機械士	6	2	33%		農業機械士	58	23	40%		危険物取扱者	受験者なし	—	—		フォークリフト	6	6	100%		アーク溶接	—	—	—	隔年開催	ガス溶接	—	—	—	隔年開催	日本農業技術検定 1級	4	0	0%		日本農業技術検定 2級	37	10	27%	日本農業技術検定2級・3級合格率：51%	日本農業技術検定 3級	24	21	88%		1 農業機械士及び日本農業技術検定(2級・3級)合格率の向上にむけた支援を継続	特になし	B
資格・免許の種類	受験(受講)者	取得(合格)者	合格率	備考(全体取得状況)																																																																								
大型特殊自動車(農耕用限定)運転免許	39	38	97%	2年生96%取得																																																																								
刈り払い機取り扱い作業安全衛生教育	38	38	100%	1年生100%取得																																																																								
小型車両系建機特別教育	—	—	—																																																																									
家畜人工授精師養成講習会	9	9	100%	畜産専攻																																																																								
指導農業機械士	6	2	33%																																																																									
農業機械士	58	23	40%																																																																									
危険物取扱者	受験者なし	—	—																																																																									
フォークリフト	6	6	100%																																																																									
アーク溶接	—	—	—	隔年開催																																																																								
ガス溶接	—	—	—	隔年開催																																																																								
日本農業技術検定 1級	4	0	0%																																																																									
日本農業技術検定 2級	37	10	27%	日本農業技術検定2級・3級合格率：51%																																																																								
日本農業技術検定 3級	24	21	88%																																																																									
5 学生自治会が主体となり、R4年度は3年ぶりに収穫祭を開催。 また、R5年度は東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会の担当	スマート農業に関するカリキュラム拡充	1 花きの低コスト環境制御技術としてEOD暖房技術の実証 2 野菜でのリアルタイム環境モニタリング 3 肉牛の繁殖等に関するセンサーによるデータ管理の習得 4 ドローンパイロット資格取得に向けた知識・技術の習得 【評価指標】 1～4 データの収集・活用による生産管理技術の習得促進	1 実習の中でカーネーションのEOD暖房に取り組み、効果的な温度管理技術を習得させている。 2 トマトの温度、湿度、土壌水分量等の環境状況をパソコンでモニタリングし、結果に基づく生育管理技術を習得させている。また、座学でも環境状況をリアルタイムで確認し理解を深めた。 3 分娩監視センサー、活動監視センサーの利活用方法を習得し、分娩前後の事故防止、牛の健康管理に努めた。 4 作物専攻2年生の卒業論文の課題にドローンを用いた水稻栽培管理を取り入れ、担当した学生だけでなく専攻全体でより実践的な技術、知識を学ぶ場とした。	1 カーネーション以外の品目でもEOD暖房技術を習得 2 リアルタイム環境モニタリングを活用したイチゴやトマトの生育技術の習得 3 牛の繁殖等に関するセンサーによるデータ管理の習得 4 ドローンパイロット資格取得に向けた知識・技術の習得	スマート農業に関するカリキュラムの継続	A																																																																						
	学生の主体性・規律性の向上	1 収穫祭など学校行事の企画・運営を支援することで、学生自治会主体による運営ノウハウの伝承 2 学生自治会主体による東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会兵庫大会の運営 3 学生自治会主体とした規律ある寄宿舎生活の実践 【評価指標】 学生自治会主体による収穫祭、県民農林漁業祭等での企画・活動の実践 2 円滑な東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会兵庫大会の開催 3 規律ある生活実践で感染症等の集団発生を予防	1 学校行事は、学生自治会が主体となって企画・運営を行った。収穫祭では特に初日の準備や販売対応でやや混乱が見られたものの、約1,600名が来場(卒業生、一般)し、農業の輪が広がった。 また、収穫祭で来場者の救急事案が発生したが、学生と教職員が協力して救護活動を行ったことで大切な命を守ることができた。この活動に対して、北はりま消防組合加西消防署長から大学校へ感謝状が贈呈された。 2 東海近畿ブロックの全農業大学校から約500人が参加した学生スポーツ大会兵庫大会では、教員の補助を受けながらも学生自治会が主体となって運営した。ブロック内全校の参加で他府県の農大生との交流が図られ、学生にとって思い出深い大会となった。(5/25・26 三木市 三木山総合運動公園) 3 寒暖差の激しい時期には、風邪のような症状を示す学生もいるが、速やかなコロナ、インフルエンザ検査の実施により、集団発生には至っていない。	1 学生自治会主体による収穫祭の運営と開催日対応のノウハウの伝授 2 学生スポーツ大会等での他府県農大生との積極的な交流 3 学生自治会主体とした規律ある寄宿舎生活の実践	特になし	A																																																																						

Ⅲ 重点目標：就農率の向上に向けた学生指導の充実

現 状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	今後の取り組み・課題と改善策	学校評議会委員の意見	達成度
1 農家出身学生は23% (R1～5年度平均) 2 農業法人等への雇用就農は36%、自営就農とあわせた就農率は44% (H30～R4年度平均) 3 東海近畿ブロック農業大学校平均就農率50.3%に比べると低い (H30～R3年度平均)	学生個々の意向把握及び就農活動支援	1 個別の進路意向の把握及び進路決定後の継続的支援 2 雇用就農先とのマッチング支援 3 施策・制度資金等を活用した就農活動支援 ----- 【評価指標】 1・2 就農率目標 50%・進路決定率100% 3 就農準備資金の活用	1 個人面談(5月)での意向確認、その後インターンシップ支援、情報提供等を実施。 2 農林機構や国の農業教育高度化事業を活用して延べ9名のマッチングを実施。 3 進路内定者27/27(100%)、就農者7/27(25.9%、うち親元就農1)、県内JA等7、進学1。 4 就農準備資金は、2年生1名、1年生2名が認定を受けた。申請前は保護者面接等で就農意思確認を実施。また、普及センターと連携し、計画的に就農支援した。	1 学生の意向把握と早期のマッチング支援 2 就農準備資金対象者の懸案支援 就農状況報告書(年2回)で確認し、農業改良普及センターと連携して課題解決につなげる	特になし	A
4 JA、農業関連産業(農機具、種苗等)等をあわせた農業に関わる進路選択者は90.8% (H30～R4年度平均)	農家等派遣実習の1年次実施	1 実習の円滑な実施のための実習態度の醸成 2 学生と受入れ農家のマッチング実施 ----- 【評価指標】 1・2 農家等派遣実習単位取得:1年生全員	1 1年生対象の農家派遣実習は、全員が40日間実施した(9/1～10/10)。なお派遣にあたっては、事前に朝夕の体温測定により学生の体調を確認した。 2 (1) 普及センターを介して調査した受け入れ農家の条件と学生の意向をマッチングした。 (2) 受け入れ農家、普及センター参加のもとで報告会を開催し、パワーポイントを用いて学生が実習成果をプレゼンした(10/19)。	1 40日間の実習を踏まえた各自の知識・技術の向上と就農率の向上	特になし	A
5 農業・農村への早期理解促進のため、40日間の農家等派遣実習をR3年度から1学年に移行(但しR3年度は、緊急事態宣言で17日間に短縮)	インターンシップ等による雇用就農支援	1 雇用就農先とのマッチング促進 2 インターンシップ等への参加を促進 ----- 【評価指標】 1 インターンシップ実施学生 :15名 2 同窓会と連携したインターンシップ支援制度の活用	1 県内の法人や個人農場14カ所でマッチングを支援。 2 延べ8名が(公社)ひょうご農林機構の「ひょうごの農トライアル事業」を活用してインターンシップを実施。 3 国の農業教育高度化事業を1名が活用してインターンシップを実施。 4 北海道のJA事業を活用して2名が先進地での酪農研修を実施。	1 農家等派遣実習のほか現場実習の機会を实践するため、インターンシップを推進 2 同窓会の「農業大学校創立100周年記念基金事業」と連携したインターンシップ支援	特になし	A
6 就農や指導機関へ就職した卒業生の動向把握が不十分	就農意欲を向上させるカリキュラムの充実	1 農業参入企業等との連携によるカリキュラム実施 2 雇用就農者や雇用就農後に独立した農業者の事例研究 ----- 【評価指標】 1 農業法人派遣実習、県下市町が実施する就農支援事業への参加 2 「現代実践農業」、「農政時事」等での農業者による講演	1 参入企業:イオンアグリ創造(株)社長の講演、校外学習の実施。 2 (1) 「農政時事」で農業者3名の先進事例を学ぶ。 (2) 県内の若手農業者と学生が集い、専門分科会に分かれて意見を交換(6/28)。 (3) 姫路市内の先進農家等4施設を訪問し、取組み状況を見学し意見交換(12/6)。 (4) 「現代実践農業」では、法人代表やOBなど6名の農業者から実践事例を聴講。 (5) 校外学習・実習で篤農家等を訪問し実践事例を聴講(15回)。	1 カリキュラムの充実	経営に必須となっている補助事業や融資・助成金等についても、講義等で周知を	A
	既卒者へのフォローアップ	1 就農した卒業生の現状確認及び転職等の意向を把握 2 就農志向者等を対象とする支援検討 3 カリキュラムに対する意見聴取 ----- 【評価指標】 1 現状調査の実施 2 就農志向者のニーズ把握及び支援策を検討 3 アンケートにより意見を聴取して。カリキュラムへの反映を検討	1 卒業時に就農(独立、親元、雇用)した既卒者を対象に、調査時点での就農状況確認や今後の意向をR3・5年度に調査した。2回の調査結果は、以下のとおり。 (1) H26～R2年度卒業で県内就農者は80名、そのうち57名の状況を確認(71%)。 (2) 調査時点の就労先が、卒業時と同じは26名(46%)、異なるは31名(54%)。 (3) 異なる31名のうち農業生産に携わっていたのは、就農(卒業時と別の組織等)18名、JA2名、農業高校等公務員3名の合計23名。 (4) 調査時点で就農者、JA・農業高校等勤務者は49名で農業生産に86%が携わっていた。 2 独立就農者から、空き施設があれば利用したいので情報が欲しいとの相談があり、未利用施設の情報を所有している機関へ伝達して提供を依頼した。 3 既卒者アンケート意見の反映【再掲】 「大型特殊自動車(農耕用限定)免許得後の操作機会を増やして欲しい」との意見が多かったため、1年生の技術実習に組み込んだ。	1 カリキュラムの充実	特になし	A